

同志社ジャーナル

同志社フューリン熊本 地域交流イベント
 同志社創立百四十周年記念 ゆかりの地に集う
 鼎談 熊本バンドを語る
 講演 グローバル時代の教育と地域
 講演 片桐家同志社五代記



INDEX

- 2015 年度 定時総会・評議員会レポート
- 2015 年度活動報告 / 2016 年度活動方針・活動計画
- 新島襄終焉の地碑前祭・地域交流講演会&コンサート
- 新島襄生誕の地碑前祭・シンポジウム・午餐会
- 同志社フェア in 熊本
- 東京歩こう会「てくてく歩き続けて百五十回」
- 片桐家同志社五代記(十六)・連載コラム 今出川四季
- 校友訪問 / ホテルおかだ 岡田浩一郎さん
- 同志社スポーツ
 - リオデジャネイロ五輪出場選手紹介
 - 早稲田大学野球定期戦
 - 慶應義塾大学ラグビー定期戦 告知
- 新ビジネスフォーラム / 「赤ちゃん学」シンポジウム
- 企業内「同志社」会 / 丸紅同志社ラグビー OB 会
- 「2016 同志社東京・春の集い」告知
- 東京 38 会総会報告・すみれ亭句会

同志社東京校友会

2015年度定時総会・評議員会レポート①

2015年度活動報告

1・群れる機会(イベント催行)に積極的に取り組み、新規会員の増強と名簿の拡充を図り、校友間の交流を深める。

(1)群れる機会への取り組み

①「第17回春の集い」は5月24日(日)に603名が参加して盛大に開催された。

②「特別協力会員の集い」は11月4日(水)に開催され、総計68名の参加であった。

③ビジネスパーソン対象イベント(洛紫会)活動

ビジネスパーソンの会の総称を「洛紫会」に統合し実施した。

・2月3日(火)21名, KANAエ
アソシエイツ代表取締役 阪部
哲也氏

・7月8日(水)21名, 毎日新聞デ
ジタルメディア ディレクター
奥野淳史氏

・9月2日(水)25名, 日本プレゼ
ン・スピーチ能力検定協会理事
長 荒井好一氏

・11月20日(金)84名, (株)アサ
ツーデイ・ケイ 代表取締役社
長 植野伸一氏

④生誕の地碑前祭

例年通り2月12日(木)に実施。今回より同志社同窓会東京支部との共催となり、記念講演

会に地元の後援を得て実施することができた。参加者は講演会95名、午餐会74名であった。

⑤新卒者歓迎イベント

春の集い時に2013年以降卒業生を無料招待としてHP、FBで呼びかけたことにより、20名が当日参加した。

⑥校友会本部との連携強化

同志社校友会大懇親会チケット販売に協力し、22枚を販売。
同志社フェアin安中には66名が参加。
同志社フェアin熊本には8名が参加。

⑦東京校友会ゴルフ大会

10月21日(水)に開催され、57名が参加。

⑧登録諸団体とのタイアップ(協力・提携)の強化

「会計人会」主催の「相続税セミナー」3回シリーズを後援。

(2)年次会の拡充

56年会、57年会、平成33年会在結成され、平成44年会も発足会を実施予定。

(3)企業内「同志社」会との連携

東京ジャーナルの「企業内同志社」で7社を紹介し、新規結成候補には東京ジャーナル誌等の配布支援を行った。

(4)名簿の拡充

①HPの入会フォームによる入会受付

及び特別協力会員候補への入会案内と

フォローの実施等により会員の拡充を行った。

②マスター名簿と会費管理名簿との整合により、正会員(有料会員)名簿の精度を向上させた。

2・学校への積極的協力と支援活動に取り組む

①大学主催行事への積極的協力
同志社講座in東京等大学主催行事には東京ジャーナル、HP、FB等を活用して、積極的に協力した。

②同志社大学東京産官学連携オフィスの後援
HPによる案内を行い、東京ジャーナル送付時には会合案内を同梱して協力した。

③母校の東日本大震災被災学生への支援(義援金)の継続
「東日本大震災被災学生への支援(義援金)」は、合計50万8千634円を今年度分と



児玉正之 会長

して大学募金口座に振り込んだ。今年度の募金額はクッキー販売による差益金との合計で52万9千154円となった。

④母校の現役諸団体への支援
21団体に25万円の支援をした。

3・財政基盤である会員数増強

(会費納入者ベース)

(1)通信協力会会員:2015年末目標:1300名↓1273名
▲27名(前年比+29名)

(2)特別協力会会員:2015年末目標:150名↓144名▲6名(前年比+2名)

計 1450名↓1417名▲33名(前年比+31名)
*新規入会154名(内、春の集い時112名)

4・実務遂行体制の拡充



定時総会・評議員会

2月25日(木)、同志社大学東京オフィスにおいて100名が出席して2015年度定時総会・評議員会が開催され、2016年度活動計画、収支予算、会則変更などが審議され、全ての議案が承認されました。

2015年度会計報告書

<収入の部>

科目	14年度実績	15年度予算	15年度実績	備考
前期繰越金	21,276,910	23,928,782	23,928,782	
(事業、収入)	8,536,000	9,024,000	8,821,100	
春の集い会費	4,503,000	4,500,000	4,822,000	参加数予算550名→実績603名
春の集い広告収入	3,318,000	3,500,000	3,173,000	
特別協力会員の集い	537,000	800,000	580,000	参加数予算80名→実績68名
碑前祭(午餐会)会費	178,000	224,000	246,100	参加数予算70名→実績74名
(広報収入)	1,670,000	1,670,000	1,580,000	
東京ジャーナル広告収入	1,600,000	1,600,000	1,500,000	
ホームページ広告収入	70,000	70,000	80,000	@10000/社
(基礎収入)	7,338,001	6,983,000	7,360,804	
通信協力会費	3,612,000	3,600,000	3,709,000	予算1200名→実績1273名
特別協力会費	2,860,000	2,800,000	2,960,000	予算140名→実績148口(144名)
校友会支部助成金	862,680	580,000	688,388	支部助成金、地域交流、会員活性化支援金
その他収入	3,321	3,000	3,416	預金利息他
小計	17,544,001	17,677,000	17,761,904	
合計	38,820,911	41,605,782	41,690,686	

<支出の部>

科目	14年度実績	15年度予算	15年度実績	備考
(事業費用)	8,396,494	9,254,000	9,126,192	
春の集い諸費用	7,738,364	8,000,000	8,079,868	「集い」収支 +15,132円
特別協力会員の集い諸費用	464,782	800,000	653,495	「集い」収支 -73,495円
碑前祭(午餐会)	193,348	224,000	227,507	収支 +18,593円
碑前祭(講演会)	0	230,000	165,322	
(広報費用)	1,628,845	1,960,000	1,768,913	
東京ジャーナル発行配布費	1,242,615	1,600,000	1,501,847	4回発行
ホームページ維持管理費	386,230	360,000	267,066	新ホームページ移行
(政策経費)	489,314	1,750,000	1,208,284	
特別協力会員維持開拓費	126,114	400,000	186,610	日経テレコム、募集文書送送料
年次会等諸団体会員開拓費	96,980	300,000	313,524	H3、56、57年会発足準備、年次会総会支援
同志社大学現役諸団体交流費	220,000	300,000	250,000	スポーツユニオン関係21団体
現役世代会員開拓費	46,220	700,000	294,350	春の集い新人会費(29名232,000円)、洛紫会等
地域交流活性化費		50,000	163,800	神田錦町3丁目町会費、神田祭法被等
(事務経費)	3,425,926	3,713,000	3,401,790	
通信費	278,338	300,000	384,071	会費請求書等郵送料他
事務用品費・備品費	300,555	300,000	381,017	トナー代、コピー用紙、封筒等
会議費	498,563	600,000	620,880	総会、幹事会、常任幹事会他
交際費	236,200	240,000	160,098	他支部総会ご祝儀等
業務委託費	484,943	450,000	386,697	業務委託費(名簿管理、会計事務所等)
労務費	420,000	720,000	714,000	事務所当番感謝金
交通費	352,782	500,000	337,841	
家賃付帯経費	585,278	300,000	156,371	家賃、倉庫料等
雑費	269,267	300,000	260,815	振込み料他
(人材派遣費)	471,420	1,200,000	1,314,630	女性1名(月水金)
(予備費)		300,000	282,416	パソコン、プリンター、プロジェクター
合計	14,411,999	18,177,000	17,102,225	
差引経常収支	3,132,002	-500,000	659,679	
特別支出(新事務所設備費)	480,130	0	0	
総合収支	2,651,872	-500,000	659,679	
次期繰越金	23,928,782	23,428,782	24,588,461	
合計	38,820,911	41,605,782	41,690,686	

募金関係(上記に含まず)

東日本大震災被災学生支援募金	563,581		508,634	同志社大学に振込(9月18日)
同志社大学特定寄付奨学金			20,520	同志社大学に振込(12月28日)
			529,154	

財産目録 (2015年12月31日現在)

資産	(2013/12/31)	(2014/12/31)	(2015/12/31)	(対'14年増減)
現金	33,803	56,854	11,964	-44,890
普通預金: みずほ銀行(渋谷中央)	1,394,929	1,525,236	1,253,099	-272,137
普通預金: みずほ銀行(銀座)	2,466,760	4,914,042	2,766,177	-2,147,865
定期預金: みずほ銀行(渋谷中央)	10,000,000	10,000,000	10,000,000	0
郵便貯金	3,000,128	2,520,678	2,238,894	-281,784
郵便振替残高	4,381,290	4,911,972	8,318,327	3,406,355
資産合計	21,276,910	23,928,782	24,588,461	659,679
(負債)	なし			

(1) 広報体制の強化
① 新HPの制作と内容の充実
・8月からHP画面を一新。
・画面制作の人員強化を図り、即応可能な体制が整った。
・東京校友会のフェイスブックが立ち上がり、多くの校友からの反応が得られるようになった。

② 東京ジャーナルの拡充
・編集委員が拡充されて、より強固な編集体制になった。
・誌面を一新すると共に進行と校正の管理を徹底した。
・「東京ジャーナル創刊100号」突破記念特大号を発行した。

(2) 新事務局体制の確立と事務の効率化
① 常任幹事の拡充
・東京校友会東京オフィスの当番制を継続した。
② 事務局体制の確立
・新規常任幹事を8名登用して、21名体制とした。

(3) 関東・甲信ブロックの各支部との連携強化
・事務局長を選任し、役割・責任・業務を明確にした。
・事務機器の整備と充実。
・プロック支部長会議を年2回開催し連携強化を図った。
文責/北濃登美男(66年・法)

2015年度定時総会・評議員会レポート②

2016年度活動方針・活動計画

目標・方針

■目標

会員相互の親睦を図り、交誼を厚くするとともに学校法人同志社との関係を密にし、かつ同志社諸学校の発展を支援する。

■活動方針

東京校友会は設立百十九年を迎える。さらに来年は百二十年になる。そこで重点取り組みとして

■課題
通信協力費会員数・特別協力会員数の伸び悩みもあり、今年は、次世代に続く若い世代の掘り起こしを行う。

①群れる機会づくりで新規会員増強と名簿拡充を図り校友間の交流を拡大発展させる。
②百二十周年事業を行う。
・記念大懇親会検討
・生誕記念碑周辺の整備と碑前祭の地域イベント化検討

具体的取り組み

■群れる機会をつくる

①碑前祭・シンポジウム・午餐会開催
2016年2月12日(金)に実施、その後記念シンポジウムを実施。併せて冊子「江戸神田生まれの新島七五三太」を記念発行する。

③第十八回春の集い

今年5月15日(日)に例年通りロイヤルパークホテルで開催予定。

④ゴルフ大会の開催

昨年に続き第二回大会を予定。
・日時 10月19日(水)
・場所 太平洋クラブ美野里コース

②特別協力会員の集い

特別協力会員の交流の場として出来る限り多くの会員の動員を図る。開催は11月を予定。

■ビジネス企画の開催

①ビジネス層へアプローチ

IT関連企業の経営者に対し、卒業生ネットワークを構築して経営に役立つフォーラムづくりを行う。
②洛紫会の推進
今年度からマーケティング研究会を統合、女子会は登録団体にする。

■会員数目標

【会員数の今年度目標】

①通信協力費会員 2016年末≒1450名 (前年1273名)
②特別協力会員 2016年末≒150名 (前年144名)

③合計

2016年末≒1600名 (前年1417名)

【会員数長期目標】

①通信協力費会員 2000名
②特別協力会員 200名
③合計 2200名

■会員増強施策について

①通信協力費会員増強策
新規会員の増強機会である各種イベントの都度、強力にPRを推進する。
②特別協力会員増強策
新規候補の掘り起こしと会員

③特別協力会員増強策
新規候補の掘り起こしと会員

メリットの明確化。

③企業内「同志社」会

産官学ビジネスフォーラムの活用と会員へ働きかけ。

④登録団体との連携

登録団体と協力してPR活動を行う。

⑤年次会の拡充

結成の決定は、五七年次会・平成四年次会・五一年次会。

⑥新卒者歓迎イベント

「春の集い」や「洛紫会」活動を通じて校友会参加を呼び掛ける。

■学校への協力支援活動

①募金活動の推進
・同志社大学修学支援奨学金に対して冠寄付「関東圏出身学生への修学支援奨学金」を新設して募金活動を行う。
・さらに大学から新たな要請があった場合は積極的に協賛する。

・同志社クッキー販売の差益の寄付など。
②同志社大学行事への積極的な協力

・同志社講座イン東京など、大学主催の行事には、校友会広報を通じて協力する。

③東京産官学オフィスとの連携



活動方針・活動計画を発表する横山副代表幹事

活動方針 ～来年の東京校友会設立 120 周年に向けて～

- ① 群れる機会づくりで新規会員増強と名簿拡充を図り、校友間の交流を拡大発展させる。
- ② 120 周年事業を行う。

・リエゾンオフィスの活動に積極的に協力、企業内「同志社」会への呼びかけも積極的に行う。

④ 大学現役諸団体への支援
・関東地区実施の諸団体行事(試合)において要請があれば積極的に支援、協力する。

・また東京ジャーナル、HP、FBでの広報活動も行う。

■ 広報活動計画

① 東京ジャーナル

・魅力のある読み物としてさらに内容の充実を図る。

② ホームページの更なる充実とフェイスブック(FB)の活用

・即時性のある情報発信媒体として、絶えずホットな話題、ニュースを発信する。

・若い世代の情報発信ツールとしてFBを活用する。

③ 広告活動
・現在、東京ジャーナル4社、HPに7社掲載。

・新規に東京ジャーナル2社、HP10社を獲得目標とする。

④ 事務局活動の強化

① 渉外活動の展開
・同志社校友会本部との連携業務。(校友会主催行事への協力

と連携)
・関東甲信ブロック各支部との連携。(ブロック支部長会議を年2回開催・各支部総会への出席)
・東京校友会HPに各支部HPへリンクさせるバナー掲載。

② 日常業務の強化
・オフィスの当番制維持。(原則是月水金閉室)
・ペーパーレスへの取り組み。

③ 諸会議の事務局業務
・常任幹事会、幹事会、評議員会、総会など。

④ イベントにおける事務局機能の充実。

⑤ 名簿の維持管理
・個人情報流出・漏洩防止対策と名簿業務の事務所への集約化で効率化を図る。

⑥ 外部での業務を事務所に集約する。

⑦ 管理情報のミニマム化を推進して情報流出・漏洩リスクを低減する。

⑧ 金銭出納および経理全般
・特別協力会員、通信協力費会員の会費100%回収。

⑨ 備品、各種書類の保管管理の充実化

⑩ 役員改選のお知らせ

⑪ 評議員選任

⑫ 評議員選任

⑬ 評議員選任



定時総会後の懇親会、締めは恒例のカレッジソングとチャアで

- 武藤勝一 (40会)
- 渡辺英雄 (40会)
- 駒田隆之 (43会)
- 吉田太郎 (洛紫会)
- 新垣ひとみ (女子会)
- ② 幹事追加選任
武藤勝一 (40会)
- 駒田隆之 (43会)
- ③ 常任幹事追加選任
寺田英昭 (48会)
- 伊吹泰治 (51会)
- ④ 副代表幹事選任
横山 徹 (46会)
- 文責/横山 徹(71年・工)

新島襄終焉の地 碑前祭

地域交流講演会 & コンサート

1月23日(土)大磯町にて「同志社創立者新島襄終焉の地 碑前祭」と「地域交流講演会&コンサート」が開催されました。

新島襄先生終焉の地碑庭園にて例年通り学校法人同志社主催の碑前祭が行われ、同志社大学村田晃嗣学長をはじめ校友・同窓や大磯町の方々と約170名が参列した。碑前にて黙祷と賛美歌斉唱の後、村田学長及び同窓会東京支部長加藤聖子氏の挨拶



新島襄終焉の地碑前祭で挨拶する村田晃嗣学長

挨拶、大磯町詩吟連盟による詩吟「寒梅詩」などが披露された。そしてカレッジソング斉唱と卒業生団体各代表者による献花で校祖新島襄の遺徳を偲んだ。碑前祭に続き、校友会神奈川県支部主催の「地域交流講演会&コンサート」が開催された。会場はJR大磯駅前にある聖ステパノ学園内の「海の見えるホール」で行われ、地元の方々をはじめ校友・同窓で200名収容のホールは超満員となった。

主催者を代表して校友会神奈川県支部長竹村慶三の開会挨拶、続いて村田学長の大磯町への感謝を込めた挨拶があった。第一部講演会は「新島襄と終焉の地大磯」と題し、同志社史料資料センターの小枝弘和氏が講

師を務めた。病身の新島襄が大磯の地から何を訴えようとしたのかについて、初めて接するエピソードを数々交え紹介され、卒業生のみならず地元の方々にとっても大変興味深いものとなった。

第二部コンサートはOBのシンガーソングライター伊藤誠氏による「いのちを歌う」をテーマとし、「風に歌え」を皮切りに始まった。同氏の作詞・作曲によるテレビ番組「賢者の選択」のエンディング曲「君の風にな



同志社史料資料センター小枝弘和氏の講演



第二部はOBの伊藤誠氏によるコンサート

ろう」、同氏のかつての勤務地であったスペイン、小学生女兒ファンとの心温まる交流、懐かしい京都の風情などをモチーフにしたソフトな歌声が会場いっぱいに響き、伊藤誠ワールドを堪能いただいた。そして東京校友会副会長金屋憲二郎氏の閉会挨拶で幕を閉じた。なお本行事は「地域交流活性化支援制度」を活用させていただき開催に至ったもの。新島襄ゆかりの地を持つ我々神奈川県支部は、今後も地域交流を念頭に置いた行事を開催したいと考えている。

文責/森 章次(70年・商)

DAIKIN

世界中でつくります。なかった空気。できなかった空気。

国が違えば、暮らしが違えば、欲しい空気も違はず。ダイキンは最新の空調技術で、その全てに応えたい。



ダイキン工業株式会社

新島襄生誕の地 碑前祭

進む地域交流

2月12日(金)「新島襄先生生誕の地」石碑前で、173回目の誕生日をお祝いしました。

生誕碑前祭

学校法人同志社を代表して大谷實総長式辞、校友を代表して児玉正之会長挨拶、地元町会を代表して前田智彦町会長挨拶とつづき、碑前に献花の後、参加者一同でカレッジ・ソングを新春の空に響かせました。



大谷實総長の式辞

連合町会長も参加

碑前祭に、神田公園地区の連合町会長・横田達之氏が参加。同氏は神田小川町北部二丁目町会長で、地域の二十余町会を束ねる連合町会長です。そのほかに二十余名の千代田区民と千代田区神田公園出張所長、明治大学博物館友の会会長、跡見女子大講師、早稲田大学院生、まちみらい千代田、千代田区観光協会、神田画報の関係者などが参加。

神田っ子の心意気

碑前祭のあと、同志社同窓会東京支部との共催でシンポジウムを開催。テーマは「神田っ子の心意気」。後藤禎久氏（斎藤月岑の研究）は、江戸名所図会に新島七五三太が暮らした安中藩邸が

描かれていることを紹介。さらに、江戸名所図会を刊行した斎藤月岑と七五三太はどちらも蕎麦好きで、すぐ近くに住んでいたことから二人が出会った可能性が大きいという話をされました。

前田智彦氏は、神田祭の変遷を絵図や写真を用いて紹介。七五三太の時代には、三層型山車や工夫を凝らした附祭に人気が集まったこと、町神輿を担ぐのは昭和になってからであることなどを解説。第二次世界大戦後の町の復興と神田祭の復活が同時に進行したという話が強く印象に残りました。



シンポジウム「神田っ子の心意気」

千代田区内小中学校に寄贈

同志社東京校友会では『江戸神田生まれの新島七五三太』（写真上）を千部発行。そのうち五百部を同志社大学や千代田区などの関係機関に寄贈しました。文責／支倉 清（73年・法）

眞下正雄氏（安中藩士末裔）は、七五三太が暮らした当時の江戸市中の写真と安中藩邸の図面を紹介。七五三太を身近に感じさせてくれる内容でした。

IC・電子部品の調達から技術まで一括サポート致します！

明光電子一社で全ての部品がそろい、技術サポート、製造、検査までのプロセスを「早く」「広く」「深く」をキーワードに実践できる、電子の統合サービスが明光電子の強みです。

早いレスポンス — 「情報」と「モノ」を素早く正確に提供
広いネットワーク — 業界に広く通じているから何でも揃う
深いサポート — 確かな信頼があるからこそできる協働体制



明光電子 株式会社

神奈川県横浜市港北区新横浜 3-18-9 新横浜ICビル
FAX: 045-471-2377
E-mail: info@meicodenshi.com

☎ 045-471-2223

明光電子 | 検索

代表取締役 十川 正明
(昭和48年 機械工学科卒業 合気道部)

140周年記念

in 熊本

同志社創立140周年記念として熊本バンドで馴染み深い熊本の地において「同志社フェア in 熊本」が開催され、東京からはるか遠い九州は熊本市でのイベントでしたが、東京校友会からは8名が参加しました。

院長から「熊本で開催できるのは大変な喜びです。実はわが校から同志社への進学者数は九州で一番多いのです」と歓迎の言葉がありました。

次に「熊本バンドを語る」の題で、同志社大学キリスト教文



グリークラブの演奏

1月29日（金）あいにくの雨模様の寒い日でしたが、正面の丸窓のステンドグラスから差し込む光が美しい九州学院高校のブラウンメモリアルチャペルにて「地域交流イベント」を開催。

まず村田学長より「寒い中お集まり頂いた皆様と会場をお貸し頂いた九州学院の関係者の方々、開催にご尽力いただきました校友会熊本支部の皆様ありがとうございました」とのお礼があり、続いて阿部英樹九州学

化センター石川立所長、安中から来られた新島学園湯浅康毅理事長、九州学院内村公春前院長の3名を講師とした鼎談が行われました。新島襄と同志社と熊本、安中の関係を掘り下げて、わかりやすくお話し頂きました。

後半は同志社グリークラブの演奏です。「カレッジソング」から宗教歌、黒人霊歌、日本の歌では「上を向いて歩こう」「栄光への架け橋」が男性合唱で力強く響き渡りました。

最後の村田学長の記念講演は「グローバル時代の教育と地域」という題です。「140年前、この熊本から熊本バンドの人達が京都へ行くのには大変な覚悟だったと思います。熊本からの転校生を受け入れた同志社は今、グローバル化が問われています。海外からの留学生が増えることも大切ですが、神奈川県大磯町の住民の皆様と新島襄終焉の地で碑前祭を行ったり、

熊本バンドのゆかりの地で地域の皆様との交流を持つたりすることが必要であり、それがまたグローバル化へとつながるのです」と講演がありました。

第2部はホテル日航熊本に場所を移して18時半より、「交流レセプション」です。村田学長の開会の挨拶に続き、中村友一校友会副会長からも「1876年1月30日、熊本洋学校の生徒35名が花岡山の山頂にて誓いを立てました。そして、創設間もない同志社へ転校したのです。優秀な学力と活力がわが同志社に輸



交流レセプション

血されたのです。このゆかりある熊本の地で地元の人々との集いが実りある豊かなものになることを祈っています」と挨拶がありました。

来賓祝辞は、高田晋熊本副市長、木下智夫校

友会熊本県支部長から、その後、九州各県の支部長の来賓紹介があり、乾杯のご発声は新島学園の湯浅理事長です。「京都―熊本―安中とつながりを作ることが大切であり、それが同志社創立150年、200年へ」とつながるのです」と乾杯しました。会場では地元名物のからし蓮根や、熊本ラーメンが振る舞われ、特に揚げたて熱々のからし蓮根はこでしか食せず格別でした。抽選会では新島襄がボストンに渡った時の船の模型などが景品でした。

九州学院高校ブラウンメモリアルチャペルでの村田学長の記念講演



九州学院高校ブラウンメモリアルチャペルでの村田学長の記念講演



熊本のパラダイム、熊本城の雄姿

だ夜も明けない午前6時半から花岡山山頂で早天祈祷会が開催されました。1867年1月30日、35名の熊本洋学校の若者がここでキリスト教を世に知らしむることを決意したことを記念して「熊本パンド奉教之碑」が同志社より寄贈されています。その前でかがり火を焚き讃美歌を歌い、聖書を拝読し、祈祷を

同志社創立 同志社フェア

ここでも同志社グリークラブの演奏で「同志社大学歌」、応援歌「若草萌えて」や、新島襄作詞「庭上の一寒梅」が演奏され、本格的な日本の合唱曲「梅雨の晴れ間」、民謡の「斎太郎節」、そして、この日のために特別に練習したという当地民謡の「おてもやん」で最高潮に盛り上げていただきました。

最後に同志社大学岩田喬広報部長より「ゆかりある熊本で集い、同じ料理を食べ親交を深めました。次の2025年の同志社150周年に向けてさらに連携を深めて参りましょう」と閉会の挨拶があり交流会は終了。

翌朝30日(土)はま

して、彼等の「奉天趣意書」が朗読されました。



ゆかりの地ツアー、ジェーンズ邸

村田学長からは「寛容と忍耐が今、再び求められている時代になった」と奨励があり、学長の奨励が終わるころには真つ暗だった空も明けきり、赤々と燃えていたかがり火も小さくなり、天高く舞い上がったその白い灰が集まった人々を祝福するように雪のように空から振り降ちてきました。

その後、希望者には、熊本のゆかりの地をめぐるツアーがあり、熊本洋学校教師ジェーンズ邸、徳富記念園、草場町教会をバスで観光して二日間にわたる熊本での同志社フェアは無事終了しました。

文責／作村満明(77年・法) 写真／新田博伸(77年・法)

東京歩こう会 てくてくて歩き続けて百五十回

「人類にとっては小さな一歩でも、我が東京歩こう会にとつては偉大な一歩」を、西村四郎さん(東京校友会名誉顧問)の旗振りの下、日本橋に記したのは、五月晴れに恵まれた2002年(平成14年)5月25日のこと。而來14年間にわたり、8月を除く毎月の例会を開催し続け、この度1月28日(木)にめでたく百五十回を達成した。

この間に参加した延べ人数は4,360名、総踏破距離は約800km(東京から尾道に相当)と、いずれも誇れる数字となっている。

歩いた地区は23区内が圧倒的に多く、ベスト3は港区・千代田区・文京区で、23区外では多摩地区が18回、その他神奈川県・千葉県・埼玉県を合わせて13回となっている。

訪れた場所は寺社仏閣の他、東京・早稲田・慶応を始めとする大学に30回、また山手・サレジオ等の教会へ15回



第150回 亀戸天神 2016年1月28日

と、アカデミックな当会の特徴が現れている。

14年間継続出来たのは、予め決められた場所に、気が向いたら集まり、みんなと一緒に楽しく歩くという気楽さが最大の要因で、今後もこの文化を継続しつつ若返りを図り、更に200回、300回を目指していく。

会の詳細は東京校友会ホームページのサークル欄をご一読ください。

文責／吉川 進(68年・工)

連載 企画

片桐家同志社五代記

その十六

文／片桐 陽(67年・工)

片桐哲は、その信仰と教育の在り方については「頑固なほどの信念」の持ち主であった。

昭和8年、同志社女子専門学校校長兼高等女学校長に就任するが、第二次世界大戦の困難を極めた時代に、キリスト教主義教育のための、まさしく粉骨砕身の苦難の日々であった。

戦後の昭和24年には女子大学教授、また25年から27年まで同志社女子大学長の職について。昭和26年から28年3月まで同志社理事を務めるが、同月同志社女子大学を定年退職し、4月に同志社女子大学名誉教授の称号を受ける。

また昭和22年から45年まで梅花学園理事を務めているが、昭和41年から45年まで梅花学園長、昭和43年から44年は梅花女子大学長も務めた。

哲が女子教育にかかわったことについて、エピソードがある。アメリカでの留学を終え同志社大学の教授に就任したとき、大工原総長に呼ばれ、「君には無理なことを言うが、今同志社女子学校教師の中にデントンという、

なかなか難しいアメリカ人宣教師がいて非常に困っている。君はアメリカで7年間も勉強したから、アメリカの事情に詳しい。女学校に行つて立て直してほしい」と要請されたのである。これが哲と女子教育の関わりのはじめであるが、父の清治が大学生の頃学資を稼ぐために同志社女

学校の漢学の教師であったことと合わせ、奇しき摂理といえる。やがてデントン宣教師とも相互に理解し、助け合うことで女学校は立派に発展の道を歩んだ。女子専門学校長時代、寮は哲が直接指導にあたり、寮生の躰は厳しく行われた。週に一度は全寮の舎監を招集し、寮生一人ひとりの修学・生活・家庭の状況を長時間にわたって聞き、話し合い適切な助言を与えたという。第二次世界大戦の進展に伴い、さまざまな困難が山積み

した。

同志社の寮はつぎつぎに廃止されたが、女子寮はそのまま続ける、廃止しないと決断したのみでなく、毎朝の礼拝も平常通りに守った。哲はそ

の礼拝で世界の平和を祈り、また敵味方の区別なく神の祝福豊かにあれと祈った。戦中の思想統制の厳しい時代、当然監督当局からとがめられたという噂があった。

同志社女子大学の学長であった瀧山徳三氏は「片桐哲先生の信念」と題した文章で、「片桐先生の平凡のようで実は非凡なお導きによって神のみ光を仰ぎみるに至ったことは、この上ない仕合せで、ただただ有り難い限りである。先生は聖句の『いつまでも存続するものは、信仰と希望と愛と、この三つである』を私共の間で実践してキリスト教の真相を啓示していた」と述べている。

片桐哲の教育は、「愛は苦勞を歡喜に変える」「愛されるよりも愛する人になれ」「他人に奉仕し他人に迷惑をかけない人生を送りなさい」というもので、多くの学生に深い感銘を与えた。



ありし日の片桐 哲

連載コラム 今出川四季



文／北条 稔

(1994年法学部政治学科卒 時事通信社外信部デスク)

「狭いなあ」。受験を控えた1990年1月、下見で初めて今出川キャンパスを訪れたときの印象だ。しかし、四半世紀以上が過ぎ、振り返ってみると、同志社は決して狭い場所ではなかった。高校3年の春に父親を亡くし落胆していた私に、広い世界につながるチャンスを与えてくれたからだ。

こんな風に思うのは、2回生の時に受講した英語のデボラ・フォアマンタカノ先生との出会いが大きい。流ちょうな英語を話す帰国子女や高校留学経験者ばかりのクラスの中で、当時、海外経験ゼロだった私にとつては楽な授業ではなかった。しかし、英語でまくし立てたかと思うと、ユーモアを交え、よどみのない日本語に切り替わる緩急自在の先生の講義は毎回刺激的で楽しいものだった。論理を重視し、短絡的に結論付けることを戒め、世間に流布する間違つた「常識」とらわれないよう

にしなければいけないという先生の教えは、今、私が通信社記者という仕事をやる上で、重要な基礎になっている。同志社の海外留学奨学金制度に合格した後、先生は米国の大学宛ての推薦状を書いてくださり、留学中、先生からいただいた何通もの手紙はくじけそうな時の支えになった。

最近、母校を久しぶりに訪れる機会に恵まれた。今出川キャンパスは地下鉄駅と直結し、充実した施設が整えられていた。かつて野暮つたい雰囲気のある教室があった場所はおしゃれなコーヒーストップに変わり、学生がくつろいでいた。後輩たちをうらやましくも思ったが、恩師の記憶が頭によぎり、昔、窮屈に感じたキャンパスに戻りたい気がした。



筆者近影

時事通信社に入社した際に、先輩社員と親しくなった土産店主(1994年9月)



父の下、皿洗いの「取締役課長」から始めて

(株)ホテルおかだ 代表取締役社長
岡田浩一郎さん

1977年(昭和52年) 商学部卒

1977年に別業種のビジネス修業として三国工業株式会社に入社。1981年、専門領域の研鑽のためYMCA国際ホテル専門学校に学び、同年、実家である「ホテルおかだ」に入社。1995年、同社代表取締役社長就任。箱根温泉協会会長。箱根湯本温泉旅館組合副組合長。



訪 校 友 問

日本を代表するリゾート、伝統の温泉保養地、東京の奥座敷、箱根。この地を代表するホテル、旅館のひとつ「ホテルおかだ」の三代目社長は、還暦を迎えたばかり。商学部の現役時代は「カメラクラブ」の一員としてお寺や仏像の撮影にバイクで駆け回っていたとか。その明るく活動的なキャラクターは今も健在で、「箱根」には欠かせない存在としてますます輝いています。

箱根湯本は100%、元通り

はじめに、箱根のホテルの経営者として、また箱根温泉協会会長として、昨年の「火山性地震」に際し、多くの箱根ファンを始め、全国の皆様方よりたくさんのお言葉をいただきました。深く感謝申し上げます。ありがとうございます。おかげさまで、私どもの

湯本地域は100%元通り、規制地域付近でもほぼ以前と変わらない形となっております。

昨年のGW明け以降、アジサイの開花期、避暑、紅葉など箱根観光のハイシーズンを含め、年内をいわば棒に振ったわけですが、なんとか従業員の「雇い止め」などもすることなく乗り切れました。これも、奈良時代の開湯以来千年以上の歴史を持つ箱根の底力かもしれませんね。

「源頼朝の湯」、小田原攻めのときの「太閤秀吉の湯」など長い歴史に彩られたこの地で、岡田家は私で十八代を数えます。

旧東海道の難関「箱根の峠越え」でさまざまな輸送の元締めをしていた旧家で、箱根登山鉄道開設に曾祖父が関わるなど箱根観光に尽力してきた家ですが、私の祖父が湯本で温泉を掘りあ

て、教員をしていた父が職業を大転換して旅館を創業しました。昭和二十八年のことです。

京都、同志社へのあこがれ

私の母が女将、叔父たちが役員という典型的同族経営で、女将が「宿の顔」の時代。母は子育てどころではなく、私は従弟たちと一緒に伯母や仲居さんに育てられたようなものでしたね。私は姉二人の長男ですので、小田原高校の頃には「あとを継がなくてはいけないかな」と思い始めまして、それまでの理系から文系に志望転換、そして京都の同志社へというイメージが湧いてきました。というのも、



豊富な湯量、和風リゾート「ホテルおかだ」

高校生になると布団の上げ下げなど手伝いに随分と使われるようになりましたから、関東の大学だとそういう状態が続くかと(笑)。それに、どうせ関東に帰って来るのなら、大学は遠いところへ、と考えたわけですね。

小田原高校からは毎年、同志社、立命館に何人か入っていました。私が、私は同志社一本。関東の高校生にとって「京都の同志社」というのは一つのあこがれで、もし関東から同志社へ進むための奨学金などがあれば、大いに励みになると思います。

二十七歳で実家の「ホテルおかだ」に入社。そんな肩書があるのかと笑われましたが、「取締役課長」で皿洗い、下足番といった下働きから修業。父、叔父について三代目の社長になりました。幸い、娘が「ムコ殿」を連れてきてくれましたので、一安心。「自分に正直であれ」をモットーに、あと十年くらいは頑張れるかな、と思っています。

文責／谷村和典(72年・文)

*

同志社スポーツ

リオデジャネイロ五輪出場選手紹介



リオ五輪の7人制ラグビーで活躍が期待される松井選手

2016年、最も暑い夏がやってくる。
今回はリオデジャネイロオリンピックでの
活躍が期待される同志社スポーツ人を紹介していきたい。

協力：同志社スポーツアトム編集局

◆林勇氣(アーチェリー)

2015年8月に開催された第48回世界選手権大会で団体4位となり、リオ五輪の代表に選ばれた。2008年に初の五輪出場となった北京五輪で団体8位入賞を果たした。だが代表を逃したロンドン五輪では団体で日本のアーチェリー史上初となる銅メダルを獲得。自身初となるメダル獲得へ。女子チームの最年長としてチームを牽引

していく。(アーチェリー部／2006年度商学部卒業)

◆伊勢田愛(ウインドサーフィン)

大学時代、2008年度インカレ個人戦優勝、2009年度準優勝と輝かしい実績を残した。2014年度は世界選手権にも出場し、満を持してリオ五輪に挑む。伊勢田は今春から、ウインドサーフィン特別強化コーチとして福井県体協に所属。世界を転戦しながら、県内での体験会や県内選手の指導に当たる。(ボードセーリング部／2009年度商学部卒業)

◆太田雄貴(フェンシング)

過去二度のメダル獲得を成し遂げた五輪アスリート。今年のリオ五輪でも個人・男子フルレでメダルの期待がかかる。現在は森永製菓に所属しているが、頭角はすでに学生時代から現れていた。世界ジュニア選手権では3位、アジア競技大会と全日本選手権では優勝を飾った。昨年の世界選手権でも頂点に立ち、日本代表条件を満たした。五輪の大舞台で三度目の飛躍なるか。(フェンシング部／2007年度商学部卒業)

◆松井千士(7人制ラグビー)

快速トライゲッター。そのスピードを武器に今では日本代表として活躍している。

昨年は8年ぶりに同志社を関西の頂点へと導いた。また、日本代表としては今年のリオ五輪出場権をかけた戦いで、大会最多の9トライをあげトライ王に輝くなど、勢いは止まらない。(ラグビー部／スポーツ健康科学部4年)

◆橋野皓介(7人制ラグビー)

日本代表候補に再びその男の名前は挙がった。鋭いステップと正確なキックでかつての同志社ラグビーを支えた。現在は日本最高峰のトップリーグのキャノンイーグルスに所属している。怪我の影響でしばらく代表メンバーから外れていたが、今年の1月に再び招集。リオ五輪から正式採用された。セブンスでその活躍に期待したい。(ラグビー部／2009年度社会学部)



快速トライゲッターの勢いは止まらない

卒業)

同志社スポーツは1936年のベルリン五輪から2012年のロンドン五輪までのすべての大会に選手を輩出してきた。その人数はのべ63人。メダルの数は合計14個。しかし、記録だけが全てではない。脈々と受け継がれてきたのは、「フェアプレー・フレンドシップ・ファイティングスピリット」。今年も「3F」の精神を胸に秘めた選手たちが、4年に1度の暑い夏を駆け抜けていく。

文責／小林洋貴(社会・3年)



安部先生の孫、安部幾雄さんによる始球式

早大野球定期戦

一昨年、37年ぶりに復活した早稲田大学との硬式野球定期戦が3月20日(日)12時半より、西武新宿線東伏見駅近くの早稲田大学野球部・安部磯雄記念球場において開催されました。

復活第3戦、2対3で惜敗

早稲田大学野球部初代部長の安部磯雄先生は同志社に英語を学ぶために入学。しかし、すぐに新島襄に薫陶を受け、新島に洗礼を受け、卒業後も同志社の教授となり、明治32年からは東京専門学校(早稲田大学の前身)



同志社の反撃

で教鞭をとられた両校にとり大変にご縁ある先生です。

その安部先生ゆかりの歴史ある定期戦がしばらく途絶えていましたが、2年前に復活し東京と京都を交互に訪ねながら毎年春に行われています。

当日は球場の安部先生胸像前に集合し、両校野球部長からの挨拶の後、集合記念撮影。

試合は安部先生の孫にあたる安部幾雄さんの始球式でスター

ト。初回裏に早稲田がヒットを重ね2点を先取し、さらに3回裏1点追加で序盤は0対3。同志社も6回表に4番打者の井手のヒットで1点返し、1対3で中盤を終了。最終回表に長打で反撃。7番山岸と2番白水の2塁打で1点差まで詰め寄り、2塁、3塁に出塁していたが、あと1打が出ずに2対3で惜敗。

神宮での再会を誓い合う

試合後、球場の横にあるクラブハウスにおいて両校の懇親会を開催。両校野球部部長の挨拶、来賓として早稲田大学京都校友会北村会長に続き、同志社東京校友会児玉会長も「安部先生は明治の時代に先例に捉われず、同志社では学生生協を作られ、早稲田では日本で初めて学生を連れてアメリカ遠征をされ、その野球の技術を全国に広め学生野球の父と言われました。同志社は良心教育、早稲田は反骨精神の教育ですが、安部先生の言われた『知識は学習から、人格はスポーツから』の言葉を心に刻み、学生同

士、校友同士のさらなる交流につながることを祈念します」と挨拶。安部幾雄さんのお礼の挨拶と優勝カップ授与があり、早稲田大学野球部OB会長による乾杯の後、食事と歓談で盛り上がりました。最後に両監督の春のリーグ戦でお互いの健闘と優勝、神宮球場での再会を誓う挨拶があり、同志社大学野球部OB会長の挨拶で閉会。その後、駅前の居酒屋に場所を移して、両校校友の懇談交流はさらに続きました。

文責/作村満明(77年・法)
写真/新田博伸(77年・法)



試合後の記念撮影

慶應ラグビー定期戦告知

今年のラグビー定期戦は
6月12日(日)金沢で開催

東京校友会の皆さま、ラグビー部監督の山神です。昨シーズンも熱い応援を有難うございました。さて、日本最古のラグビー定期戦である同志社・慶應ラグビー定期戦が6月12日(日)金沢市西部緑地公園競技場にて行われます。これは昨年7月、校友会石川県支部の集いに小嶋校友会副会長と共に邪魔し、その際に話題となった同慶ラグビー定期戦の金沢への招致が、その後の校友会石川県支部、石川県三田会のご尽力により実現したものです。宜しく応援をお願いします。

山神孝志(90年・経)

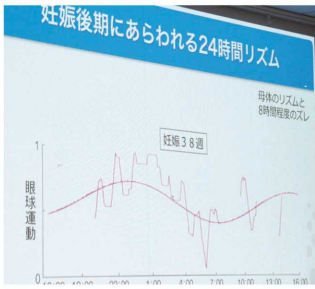


昨年は56対45で勝利

同志社大学「新ビジネス」フォーラム 「赤ちゃん学」シンポジウム

3月16日(水)、同志社大学東京オフィスセミナー室で「赤ちゃん学」シンポジウムが開催された。これは、大学の研究を、東京で企業関係者に認知されたいと計画されたもの。「赤ちゃん」に関係する様々な企業から約120名の参加があり、その顔ぶれからも、関係する領域の広がりが見える。

同志社大学赤ちゃん学研究センター長小西教授によると、赤ちゃん学とは「ヒトの起点である“赤ちゃん”を科学的に探るために赤ちゃんに関わるすべての領域の研究者を融合した新しい学問分野」であり、「同志社大学の心理学、脳科学、情報工学、ロボテクスに関わる機械工学などの異分野が参加する文理



赤ちゃん学と社会をつなぐために

1. 基礎研究の成果を直接社会に活かす
赤ちゃんの環境を守る

- ①胎児環境
- ②住環境 (音、光など)
- ③育児環境 (ベッド、家具など)

赤ちゃんからのヘルスケア (睡眠、生活習慣病など)

- ①計測機器の開発、改良
- ②栄養など
- ③新しい治療方法の開発

赤ちゃんの発達成長に関する

- ①玩具、育児用品など

2. 産学連携

融合型の研究センター」。これまで木津川市、京田辺市などの地元の赤ちゃんが研究に参加し科学的に検証された結果をこの日発表された。

お腹の中の赤ちゃんが指しゃぶりをするのは、しゃぶることで、自身の体を認識するのだそう。人間の感覚で一番最初に発達する触覚は胎児の時から使われているわけだ。

21世紀になって爆発的に増えている「発達障害」は2〜3歳で発症するが、胎児期から刻んでいる機能リズムの異常に関係していることがわかってきている。これからの更なる成果に期待したい。

文責/安永昌代(81年・経)

企業内「同志社」会 丸紅同志社ラグビーOB会

加藤幹男(昭44年)から山岡俊哉(平6年)まで24名が名を連ね、大島響(昭49年)を中心に定期的に集まる。丸紅ラグビー部が関東社会人一部リーグ(トップリーグが発足するまで関東で最上位だった社会人リーグ)で東芝府中、東京三洋、サントリー、リコーといった強豪と戦ったときの主力メンバー。チームメイトにはかつて敵だった早慶明など伝統校OBが多かったが、「大学によりラグビー哲学が違う」と驚きつつ、「酔っぱらうと同じになるんやけど」と笑う。早慶明に比べると「同志社ラグビーは発想が自由、しかし極めて合理的」で意見が一致。

さて、駐在地は総合商社らしく世界中に散らばる。米英豪加中韓台印、これにミャンマー、パキスタン、ペルー、ブラジル、チリ、アルゼンチン、ケニアと続くが、最後に出てきた地名は何度も聞

き返した。「ムアラエニム」、聞けばインドネシア南スマトラのジャングル奥地にある村だとか。又、メンバーが取り扱ってきた商品も多岐に亘って面白い。石油、鉄鋼、鉄鉱石、ジェット機、ロケット、紙、パルプ、セメント、木材、プラスチック、水産物、コーヒード豆、靴、釣竿、そしてコンドーム。集まれば同志社ラグビーや世界経済を話題に熱い議論が湧く。

文責/出石賢司(78年・経)



丸紅同志社ラグビーOB会

DHC 通販化粧品・健康食品売上 **No.1**

DHCが開発した『薬用Qシリーズ』は、薬用成分と10倍濃度^{※2}のコエンザイムQ10を配合したスキンケア。多くの肌に愛されて、売上個数1600万個^{※3}を突破しました。これからもDHCは、日本最大級の通販化粧品・健康食品企業として、お客様が美しく輝く毎日を応援いたします。

株式会社DHC
〒106-8571 東京都港区南麻布2-7-1 代表取締役会長兼CEO 吉田嘉明(昭和40年 文芸部英文科卒)

日本初^{※4} DHCだからこそ実現できた

薬用成分+
10倍濃度^{※2}の
コエンザイムQ10

■薬用QはDHCの登録商標です。 ※1 2015年1月1日 日本流通産業新聞 通販・通販・EC売上高ランキング
※2 当社比 ※3 2010年1月14日～2014年11月末 日までのシリーズ総販売個数 ※4 医薬部外品として

<http://www.dhc.co.jp>

東京38会総会報告

第14回東京38会総会が今年も3月8日(火)に青山ダイヤモンドホールで、例年並みの43名の参加者を得て開催されました。

今年の総会では、38会創立以来14年の永きに亘り役員を務められ、会の隆盛の礎を築かれた楠田会長、西裏副会長、窪川総務幹事の三役他が同時に退任されるという大きな役員変更議案が承認されました。3氏他の功績に対して会員一同心より感謝申し上げます。

アトラクションでは会員の田中春鳥山(本名:久義)さんの尺八独奏会が行われました。学生時代から磨き上げられ大師範の資格をお持ちの氏の妙技に会場は大喝采となりました。

2時間があったという間に過ぎ

すみれ亭 昭和38年会俳句会
見送りは櫻並木のつきるまで

野田史子

人生、見送りほど切ないものはない。それが櫻の満開の並木の下となると言葉もなかり。どこまで行ってもキリがない。この櫻並木がきたら深く踵を返そう、別れて戻ろうと決心して来たのだ。そこには日本古来の女性の想いがはてしもなく揺曳する。何の飾りもない素直な表現が胸を打つ。

(選評・あかぎ倦鳥)



文責/奥山博司(63年・商)

最後はカレツジソングと同志社チャールを声高らかに合唱し、来年度で再会できることを誓って散会となりました。

同じ建物の地下のカフェに場所を移しての二次会も大勢の方が参加し、一層懇親を深めました。

編集後記

今号より「同志社東京ジャーナル」編集長に就任致しました新田博伸でございます。いつも東京ジャーナルをご愛読いただき、ありがとうございます。

東京ジャーナルは今号で103号となり、1990年平成2年)に東京ニュースが創刊されてから26年の歴史を刻んだこととなります。

私は西村四郎初代編集長のもとで創刊号から27号まで7年間編集委員を務めました。次第に仕事が増しくなり、しばらく東京校友会の業務からは離れておりました。しかし、一昨年還暦を迎えたのを機会に東京校友会に復帰し、編集委員の仕事も再開することになりました。

その間に4ページ単色刷りでスタートした東京ニュースは、皆様のおかげでオールカラー12(16ページの東京ジャーナルへと大きく成長しています。

東京校友会には、東京ジャーナルに加えてホームページ(HP)とFacebook(FB)という3つのメディアがあります。これからはこれまでに、

それぞれの長を活かせるよう、東京ジャーナルは特集や連載企画など魅力ある読み物の提供、HPは東京校友会・年次会・サークルのイベント情報発信、FBは絶えずホットな話題やニュースを提供するなど、各メディアの役割分担を明確にしていきたいと考えています。

つきましては、これからも、より良い誌面作りに努めていきたいと存じますので、どうぞよろしくお願ひ致します。

尚、今号から執筆者の卒業年については、大学の表示方式と揃えるために、従来の和暦から西暦(下2桁)に変更することになりました。

文責/新田博伸(77年・法)

DOSHISHA TOKYO JOURNAL
2016.April. NO.103 同志社東京校友会
〒101-0047 東京都千代田区内神田3-22-7 大平ビル6階
電話: 03-5579-9728
FAX: 03-5579-9729
発行人 / 児玉正之
編集人 / 新田博伸
印刷 / 株式会社スバルグラフィック
<http://www.doshisha-tokyo-alumni.jp>
mail:office@doshisha-tokyo-alumni.jp

HP会員ページ
ログイン情報

ID=doshisha
PASS=1875

家族葬から社葬・お別れの会まで、
信頼の葬祭ブランド「公益社」におまかせください。



KOEKISHA

株式会社公益社 ネットワーク 東京・横浜・大阪・兵庫・奈良
東証一部上場 燦ホールドディングスグループ

まずはお電話を。公益社 ご葬儀相談センター(24時間・365日受付)
さよならのこころ
0120-347-556

<http://www.koekisha.co.jp>

通話料無料・携帯電話可

首都圏ネットワーク(自社会館・営業所)

◆東京本社(港区南青山1-1-1 新青山ビル西館14F)

会館

- 公益社 用賀会館 ●公益社 高円寺会館
- 公益社 明大前会館 ●公益社 仙川会館
- 公益社 田園調布会館 ●公益社 雪谷会館
- 公益社 高輪会館 ●公益社 会館 たまプラーザ

営業所

■青山ご葬儀相談室 ■日吉営業所 ■鶴見営業所

※上記を中心に300ヶ所以上の葬儀場がご利用になれます。

対応地域

首都圏(東京・神奈川・千葉・埼玉)
近畿圏(大阪・兵庫・奈良)

燦ホールドディングス(株) 取締役相談役 播島 幹長 (昭和33年 経済学部卒業)

燦ホールドディングス(株) 法人営業推進部 部長 小川 佳秀 (昭和50年 経済学部卒業)